

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルチャオ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年1月14日		～	令和7年1月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	令和7年2月5日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	担当制であること →支援が個別的、継続的に行える 小集団であること →人との関わり方を実際の場面を通して学べる (支援できる)	利用者一人一人の気持ちの動きや遊びの展開などを丁寧に追いつながりを持ち、継続的な支援を行うようにしている。保護者への説明もしやすい。 担当以外の利用者についても、スタッフ間でお子さんの状況を共有するようにし、お子さん同士が関わりを持つ場面での対応について一緒に考えていくようにしている。	スタッフ間での情報共有を密に行っていく。 困りごとがあった時に、アドバイスをもらえるようなスーパーバイザー的な存在がいるといい。 職員の資質の向上。
2	母子同室・親子通園であること →保護者とのかかわりが多い	お子さんへの支援だけでなく、保護者から家庭や園での様子を聞き取ったり、相談を受けたりするようにしている。 共感的に話を聞くようにし、親の不安や負担の軽減につながるようにしている。	困り事への的確なアドバイスができるようになること。 保護者との信頼関係をしっかり築くために、まずは親の気持ちをしっかり受け止める、傾聴に徹する。
3	母子同室・親子通園であること →親同士のつながりを作っていく	子ども同士の関わりを繋ぐだけでなく、親同士のつながりも繋ぐようにしている。 茶話会や行事を開催し、いろいろな保護者とのかかわる場面を作っていくようにしている。	茶話会を開催する回数を増やしたり、研修会を企画したり、親子で楽しんで参加できるイベントを考えていく。 先輩ママとの繋がりも作っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	助言できるスタッフが限られている（と保護者が感じてしまっている）	経験があまりないため、自分の考えに自信が持てず、うまくアドバイスすることができない。	職員が自信を持ってアドバイスできるよう、経験や知識を増やす。
2	職員間のミーティングや情報共有の時間がうまく取れないこともある	利用者対応の時間が長引いたり、他の事務作業が残っていたりして、全員が揃って話をする時間が少ない	ミーティングをする時間を決めて、実行する。 ミーティングの内容を不在の職員にも共有しやすい方法を考えていく。
3	支援の情報の発信が少ない	個人情報保護からも、どこまで情報発信していいかわからない。 おたよりを作成したりする時間がなかなか取れない。	法人のHP（昨年12月から運用開始）を活用し、情報を発信していく。 できていることから広げていく。